

## 2017年度 委員会事業報告書

担当副理事長 小山高史  
主権者教育実践委員会 委員長 加藤昌之

### 1. 委員会開催日 (12回)

1/17	2/13	3/10	4/3	5/25	6/16	7/11
8/22	9/27	10/11	11/2	12/10		

### 2. 事業報告

- ① 例会の担当 7月15日
- ② 主権者教育に関わる事業の担当(愛西)(蟹江)(大治) 3月11日・4月8日・7月8日
- ③ 愛知ブロック大会【豊田】の担当 9月9日
- ④ 新入会員の拡大 通年
- ⑤ 新入会員の育成 通年

### 3. 委員会メンバー

加藤昌之 辻昌志 宇佐美智也 奥田晃史

出向メンバー

羽根豪一

### 4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、若年世代の主権者意識を向上させることを目的とし、自分たちの住むまちが抱える課題や問題点を知り考えることで、自分たちのまちの未来について責任と覚悟ある決断ができるよう、若年世代とともに活動をしてまいりました。また、自らの生活を政策的観点から思慮し政治と実生活を結び付け、地域の未来のために自分の意思をしっかりと表現する大切さを実感していただくことが、次世代に繋がる主権者を育成するために必要なことだと確信し、一年間取り組んでまいりました。

本年度は、3月に蟹江町、4月に愛西市、7月に大治町のそれぞれ3つの行政区で任期満了に伴う、市長、町長選挙が執り行われ、それに併せて市民の皆様にもまちの未来をしっかりと考えていただく機会として、主権者教育に関わる事業として公開討論会を開催いたしました。今回初めての試みとして、地域の高校生を巻き込むと同時に事業体系を2部制にし、1部で高校生による地域の魅力や問題点についての発表、2部で公開討論会というかたちで開催をしました。また、公開討論会についても、立候補予定者が1名以下の場合でも事業自体は中止にせず、実際の立候補者を含めた市政や町政に関わりの深い方の意見を反映させた、模擬討論会を行いました。

第1部を実施するにあたり、事前学習として高校生に各地域について学んでいただきました。自分たちが感じた魅力や問題点を整理したうえで色々な視点から考えることで、自分たちの住む地域を見直す機会となり、自分たちのまちは自分たちで変えていかなければならないという、当事者意識の醸成につながったと考えます。また、第1部の若者の考えと、第2部の立候補予定者を含めたまちに深く携わる方の考えを比較することで、住民の方が真剣にまちの未来について責任と覚悟ある決断をするための機会を創出できたのではないかと考えます。しかしながら、3つの事業を通じて、ご来場者としての高校生や大学生といった若年世代の主権者の方が大変少なかったことは見過ごせる点ではありません。事業の対象者を若年世代の主権者と

位置付けるのであれば、その世代の方をいかに呼び込むかということに対して委員会内でもっと議論を交わすべきだったと反省しております。事業に参加をされた方についての主権者意識は醸成することができましたが、大勢の方の意識を醸成させることができなかつたと考え、目的達成はされていないと捉えることもできます。今回のケースでいえば、事業開催の会場に学校施設を使用する、学校側に授業の一環として認めてもらうなど、学生が本当に参加しやすい環境を整えることが重要だと考えます。そのためにも、今後開催する公開討論会はもちろん、事業、例会への参加やご協力を引き続きお願いをし、各高校との繋がりを強固なものにしていくことが必要だと考えますので申し送りとさせていただきます。1年2年先では難しいかもしれませんが、この先学校との繋がりを強くしていくことができれば、先に書かせていただいたことが実現できるのではないかと考えます。

7月例会では、海部津島地域をひとつと考えた仮想都市「AMATSUSHIMA市」の模擬市長選挙に、海部津島地域の高校に通う高校生に立候補していただき、より良いまちにしていくための政策を考えていただきました。考えた政策をしっかりと発信し、来場者の方に投票というかたちで反応をしていただくことで、意思を表現する大切さについて実感をしていただけました。また、今回投票に年齢制限は設けず、小さなお子様でも投票ができるようにしました。政策の中身や地域の問題点などは分からなくても、自らの意思で誰かを選ぶという行為が、責任と覚悟ある主権者に成長するための一歩であったと実感しております。

しかしながら、3つの事業、例会を通しての集客については非常に難しいものがありました。主権者教育というテーマの事業、例会における集客は今後の大きな課題であると考えます。そのための広報手段について、新聞折り込みチラシやFacebook等のSNSでの発信、新聞記事の掲載など、今まで一般的に行われてきた広報手段の活用のみで、それ以外の新しい方法を見出すことができませんでした。委員会でもそのあたりの議論を深堀することはなく、怠慢であったと反省しております。ただ、事業・例会を開催するにあたり、主権者教育といった選挙や政治という非常にとっつきにくいテーマの事業では、広報によって人を会場に呼ぶという方法に限界があると感じました。従来のような会場に人を呼び込む事業形態ではなく、人が集まる場所での開催や、事業の様子を動画サイトで配信するといった、人々が気軽に見聞きすることができる手法を模索する必要があると考えます。興味の無い方、主権者として意識が低い方にいかに運動発信できるかが、今後の主権者教育に関する事業を行ううえでしっかりと考えなければならない点であると感じました。

1年間の活動を通して、事業、例会に関わりをもっていたいただいた高校生、大学生の方が次世代に繋がる主権者となったことは間違いありません。しかしながら、主権者教育は今年1年で終わるものではなく、今後の主権者教育をより良いものにしていくためにも、今年協力をいただいた各学校との関係性を良好なものにしていただくことを申し送りさせていただきます。

以上を反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

## 5. 委員長所見

この一年間、若年世代に自分たちのまちの未来は自分たちで変えていかなければいけない、という主権者としての意識をもつていただくために活動をしてまいりました。そのために、主権者教育に関わる事業ということで、蟹江町、愛西市、大治町で行われた首長選挙にもなった公開討論会と7月例会を開催し、全ての事業、例会において若年世代である高校生に参加をしていただきました。実際に、準備段階から高校生に参加をしていただいたことは、事業や例会の目的達成のために大きな効果を発揮したのではないかと考えております。また、3つの事業と例会が単発で終わらず一貫性をもって開催できたことで、より運動発信の効果を高めることができたと感じております。

主権者教育に関わる事業については、賛否両論あるとは思いますが新たな試みとして模擬討論会を開催したことは、LOMの大きな経験値になったと思います。公開討論会の代わりとしての模擬討論会の開催が、

妥当な方法であったと必ずしも言えませんが、主権者教育としての手法として今後選択肢の一つになっていけば、今回開催した意味があるのではないかと思います。

紆余曲折を経て委員長を拝命し、自身の中で色々な想いが交わる中、委員長としてのスタートを切りました。途中本当に苦しい時もあり、投げ出してしまおうと思った時も多々ありました。そんな中で、目的を見失わずなんとか走ってこられたのは、常に明るく前向きな姿勢で支えてくれた辻副委員長、文句も言うこともなくついてきてくれた委員会メンバー、そして、委員会の垣根を越えて様々なことに協力してくれたメンバーの皆様のお力添えがあったからこそ、乗り越えることができたと確信をしております。また、主権者教育に関わる事業開催にあたり、様々なアドバイスとコーディネーターとしてご協力を賜りました、公益社団法人豊橋青年会議所の森長泰志君には感謝しきれません。様々な方のご協力のおかげで、本年度、当委員会が開催した7月例会がAWARDS A I C H I 2 0 1 7グランプリという名誉ある賞をいただいたのだと確信しております。

結びとなりますが、この一年間で青年会議所の友情の深さ、そして組織としての強さを心の底から感じることができました。一年間の活動で関わりがあった全ての方、そして人間として成長するこの機会を与えてくれた中野理事長に、心から御礼を申し上げ、委員長所見とさせていただきます。ありがとうございました。

## 2. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	195,000	事業費	182,968	②	195,000	②	182,968
合 計	195,000	合 計	182,968	合 計	195,000	合 計	182,968